一〇〇年、二〇〇年後の世代の日本は祖父母の時代に？

W校　高等部二年一組
入江　仁悠

現在の日本は所得格差問題やジェンダー格差・男女格差問題、食品自給率の低下など多くの問題を抱えている。特に少子高齢化は日本が現在直面している最も重大な課題の一つだろう。合計特殊出生率が低下する一方で総人口に占める高齢者人口の割合は増加し続けている。また、高齢者人口は増加しても、総人口は減少傾向にあるため、これからの日本の発展は危うい状況にある。今後の日本のことを考えると、少子高齢化は優先度をあげて取り組むべき問題なのではないか？そして私たちはどう取り組むことができるのかを考える必要がある。

少子高齢化は経済、自治体、社会保障制度それぞれに影響を及ぼすため、非常に深刻な問題だ。経済活動は労働力人口に左右されるが、今の人口減少・超高齢化が進むと、労働力人口は加速的に減少していく。急速な労働力不足の解消のために長時間労働を強いられたり、ワーク・ライフ・バランスが改善されなかったり、少子化がさらに深刻化していくという悪循環が生じる。また、国民負担の増大が経済の成長を上回り、国民一人ひとりの生活の質が悪化する恐れがある。少子高齢化はさらに自治体へも大きな影響を及ぼす。地方圏から大都市圏への人口移動が今のままであると、地方圏以上に出生率が低い首都圏への人口流入が続くことになる。つまり超高齢化になると、地方圏を中心に多くの自治体でこれまで通りの行政機能を維持することが困難になる。さらに、首都圏への人口移動は首都圏での人口減少・高齢化を招き、グローバル都市としての東京の活力が失われる。そして社会保障制度への影響も懸念される。少子化と高齢化によりこのまま続くと、二〇六〇年には高齢者一人を労働力人口が約一人で支えることになる。よって、医療・介護費を中心に、社会保障に関する給付と負担のアンバランスは一層強くなる。

データを参考に詳しく見ていくと、二〇一八年時点で年少人口は総人口の一二.二%、生産年齢人口は五九.七%、そして高齢者人口は二八.一%である。このデータより高齢者人口の割合が年少人口の割合よりも高いことが分かる。さらに、合計特殊出生率は第一次ベビーブームがあり、過去最高であった一九四九年の四.三二に比べ、二〇一七年では一.四三%と大幅に減少している。合計特殊出生率の低下は人口を維持するために必要な出生率の水準を下回っていること、日本の総人口が減少し続けていることを意味する。よって現在の日本は少子化が急速に進み、総人口の減少が抑えきれず、高齢者人口の大幅な増加に伴い超高齢社会に突入しているといえる。また、多くの人が懸念する少子高齢化による今後の未来も非常に深刻である。国立社会保障・人口問題研究所によると、総人口は二〇五三年には一億人を割り、生産年齢人口が総人口に占める割合は五一.四%となる予想である。つまり今のままでは少子高齢化の加速により、未来を担う年少人口は一割程度しかおらず、高齢者人口が四割近くを占める未来となってしまう。これでは今後の日本の経済や政治は高齢者が中心となる可能性があり、日本の崩壊や他国との関係が危うくなる。よって、少子高齢化は今一番優先的に取り組むべき課題だろう。

今後の日本が今以上に発展できるように政府は様々な政策を行っている。少子化への取り組みでは、子育て支援施策の充実化や男女の働き方改革など結婚、妊娠・出産・子育て、教育、仕事の各段階に応じた支援を社会全体で推進している。高齢化への政策では就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境、研究開発・国際社会への貢献など、全ての世代への活躍推進、の六つの分野に分けて取り組

んでいる。また、少子高齢化を深刻な課題と理解するために身近なところでは少子高齢化に関するスピーチ・プレゼンテーションを聞く機会が中学校や高校であったり、職業体験のような機会で老人ホームや保育園・幼稚園などの施設に行ったりすることもある。

　このように少子高齢化は私たちだけでなく未来の日本に関わる非常に重大な問題である。労働力人口の減少により、年金制度や医療制度が成り立たなくなるという社会問題へと発展し、日本の経済成長率が低下する可能性がある。一人で解決できる問題ではないが、日本の危機的状況を変えるためには私たちも政府や関連機関とともに一丸となって取り組む必要がある。今できることは、少子高齢化問題の現状や課題を知ることから始め、情報を共有し、より多くの人が興味・関心を持てるようにすることだ。そして未来の日本のためにという意識が大切になるだろう。

突然の不調

W校　高等部一年二組

渡邉　喜

　五月初めの日曜日、僕は急激な腹痛に見舞われた。それはちょうど家族と一緒にレストランで食事を終えた頃。僕は運動も適切にとり、毎日三食きちんと食べ、必要な睡眠時間をしっかりと取って、健康的な生活を送ってると思っていた。なので、この腹痛を感じた時、最初は食中毒なのかと勘違いしていた。親にも、「胃痙攣に違いない」と言われ、油断をしていた。ベッドに入り、安静した状態で休めば、翌日までには治ると思い込んでいた。しかし、いっこうに痛みは減らず、むしろ増えていた。仕方なく病院に行き、調べさせてみたら、腸閉塞症をひきおこしていることがわかった。この時は「腸閉塞」と言われても、正直まだ何なのかわからず、混乱していたが、先生の反応とお母さんの反応を見て、僕も焦り初めた。

　腸閉塞症とは、腸の中で食べ物や消化液など内容物の流れが止まってしまう状態。簡単にいうと、腸が閉まってしまうこと。お医者さんが初めてこのことを説明したとき、僕はまだ理解ができなかった。聞きたい質問がたくさんあるのに、何も言えなくなった。痛みが始まったあの日までは、これまで何一つの違和感もなかった。現地校の陸上部の練習も普通に参加していた。そんなわけないと、否定したいものの、受け入れざるを得なかった。そこからは、何も考えられないまま、私物の支度をして、病院に入院した。こんな風に入院したことは、四歳以来だったので、頭の中は不安と恐怖で埋め尽くされてた。四歳の時、僕は腸回転異常症の手術のため、入院した。命に関わるほどの大事件だったそうで、幸いなことに手術は成功したが、皮肉なことに、その四歳の時に受けた手術が、今回の腸閉塞症を起こした主な原因だったのだ。それを聞いて僕は失笑してしまった。

　入院した時は真夜中だったが、病院は相変わらず忙しかった。痛み止めを飲まされた後、僕は今から行われることについて説明された。この時点では、腹痛は少なくなり、僕も気分が回復してきていたので、「薬を貰えば、すぐ治るでしょう」と考えていた。しかし、そこからが地獄の始まりだった。初めに点滴を打たれ、血を何本か抜かれた後、鼻からチューブを入れ込まれた。振り返ってみると、このチューブが今回の中で一番の苦痛だと思う。息をするのも難しく、唾を飲み込むだけでも痛みを感じた。チューブを取ったあとにも、二週間ほどの鋭痛が続いた。今でもそのチューブに対しての恐怖心が残っているくらいだ。チューブの取り付けに成功したあと、一気に疲れたからか、もしくは情報量が多すぎたせいか、僕はすぐに眠ってしまった。しかし起きてからも苦痛は続いた。明け方、専属の看護師さんが痛みを一から十の数字で表してくださいと聞いてきた。自分の中では痛みは八を軽く超

えるくらいだったが、人と話すのが苦手な僕は、「四から五くらいです」と余裕ぶっこいて伝えてしまった。幸いに、看護師さんは僕の顔色を見て、嘘だと見抜いてくれたのか、すぐに他の医者さんに伝え、僕は緊急で手術を受けることになった。

四歳の時に一回手術を受けた僕は、小さすぎて手術を受けるという報告に対して、何も感じぬまま手術室に連れていかれたが、今回はいざ手術室に動かされるという時、恐怖を感じた。大変な事態にならないために必要だと知っていたものの、今から体が切り開かれ、内臓が動かされると考えると思考が混乱した。ところが、手術室に動かされた時、準備をしていた外科医がもう一人の外科医にジョークを言ってるのが聞こえた。それは、外科医が失くした時計に関してのジョークだった。高級時計を失くした外科医に「稼いでいるんだから、そんなの痛くも痒くもねーだろ」ともう一人の外科医が言っていた。たわいもないその発言に思わず僕は頭の中で笑ってしまった。一瞬によって緊張が解れ、恐怖がうすまった。そこから意識が失くなり、起きた時には手術が成功していた。

手術に成功し、またもや医者に命を助けられた僕は、医者に対する気持ちと尊敬が高まり、将来医者になりたい気持ちが強まった。僕と同じ、普通の人間が、毎日他の人の命を助けているのに憧れた。どんな状況でも冷静に対応し、精密な動作と早い思考で、常人には到底できない芸をこなすことに感動した。今回みたいに、命を助けながらも、人を笑顔にできる医者になってみたいと、改めて思った。そして、恥ずかしながらも、痛みを感じたら、素直に伝えた方がいいと思った。

夏休みに学んだこと

W校　高等部一年一組

小林　琢磨

僕は、今年の夏、初めて二週間もの間、親元を離れてスリープアウェイのサマーキャンプに参加しました。このキャンプは以前に参加した友達からの紹介で知りました。最初はあまり気が進まなかったのですが、友達から、絶対に楽しいから、と強く勧められたこと、また母からも、気軽に参加してみたら、と言われ、結局、妹と一緒に参加してみることにしました。

僕が参加したのは、CIT（カウンセラー・イン・トレーニング）という、リーダーシップを学ぶプログラムで、キャンパーで参加している子達の面倒を見るというものでした。今年の二月に、「なぜ参加したいのか」、という志望理由を書いてアプリケーションを提出しました。

キャンプに参加することを決めた頃、「自分自身を変えたい！」という強い願望がありました。人と接すること、人とコミュニケーションを取る事があまり得意ではない僕にとって。このCITのプログラムに参加することは、最初はとてもハードルが高く感じました。でも、少しでもコミュニケーション能力が上がるようになりたかったのと、リーダーシップとは何か、ということを学ぶにはとても良い機会だと思いました。また、周りの人から、もっと自分のことを認めてもらえるように努力もしたかったし、また努力している自分のことも、もっと好きになりたかった。だから、少し怖かったけれど、自分で自分の背中を押して、飛び込んだような感じでした。

家からキャンプ場に向かう車の中で、僕はとても緊張していたので、音楽を聴いてリラックスをするようにしました。新しく知り合う人達と仲良くできるのだろうか、コミュニケーションは上手に取れるだろうか、不安でたまりませんでした。両親と別れた後は、もう

頼るのは自分しかいない、と思いました。
でも、いざ蓋を開けてみると、リーダー、カウンセラー、ジュニア・カウンセラーの先輩達が暖かく迎えてくれて安心しました。どうして良いかわからず。固まっていた僕でしたが、そんな心配もすぐに無くなりました。
最初は、相変わらず思うように人とコミュニケーションが上手に取れませんでしたが、キャンプの期間中、なんとか乗り越えようと頑張りました。CIT のプログラムに参加していた同い年の友達とも日を追うごとに仲良くなっていき、毎日リーダーになる為のトレーニングを一緒にしながら、生活を共にし、強い絆が出来上がったように思います。皆それぞれ違う場所に住んでいて、今回初めて会った人が多かったけれど、最後はすっかり「仲間」になりました。
僕が担当したグループのリーダーは、僕よりも二歳年上で、空手で世界四位になったこともあって、強くて、誰にでも優しくて、またてしまいました。
「俺、全然変わってないじゃん。」
僕はその後、二日間くらい落ち込みました。
その様子に気がついた、あるカウンセラーの先輩が、声をかけてきてくれて、相談に乗ってくれました。こんな僕を見ていてくれる人がいるのだ、ということが、とても嬉しかった。
キャンプも終わりに近づいてきて、スムーズに人とコミュニケーションが取れるようになっていること、そして子供達を上手にまとめられている自分がいることに気がつきました。僕にとっては大きな進歩でした。キャンプ最後の晩のセレモニーでは、CIT の代表として、皆の前でスピーチもしました。カウンセラーの先輩も、僕が読む日本語の原稿を一緒に考えてくれました。
このキャンプを通じて、僕の中で変化が起き、色々な事も上達したように思います。仲間との強い絆が生まれたこと、尊敬できる先輩に出会えたこと、そして自分自身で気がついたことは、「何事も諦めないこと。やりたい、という強い気持ちがあれば何でも達成できるということ。」これが僕がこの夏に学んだことでした。全てが初めての体験でしたが、本当に参加して良かったと心から思いました。
面白い人だったので、皆からとても人気がありました。そんな彼を毎日見ながら、
「僕もこんな頼れる強いリーダーになれたいな、いや、なれるように頑張ろう」
と、思うようになりました。本当に僕が見ても格好良い先輩でした。
僕が担当したのは低学年グループで、なかなか言うことを聞いてくれなくて苦労しました。僕はすぐ怒ってしまうし、子供達を上手にまとめることもできませんでした。
「強く怒らないこと。そういう時は、頭から叱っちゃダメなんだよ。」
と、子供達への接し方や注意の仕方もリーダーが教えてくれました。彼らと接しながら、先生の言うこと、親の言うこともろくに聞かず、よく叱られた小さい時の自分のことも思い出していました。
ある日、グループの子ども達が喧嘩を始めました。でも、僕は間に入って喧嘩を上手に止めることができず、リーダーにも迷惑をかけ

私を変えた本

W校　中等部三年一組
押川　正太郎

私は読書が好きだ。本がつれていってくれるその世界に惹かれ、睡眠や食事なども飛ばして本を読んでいたい、と思うこともしばしばある。しかし私は常にそうではなかったようにに思う。本は人並みに読んでいたし、特に読書嫌いではなかった。しかし、逆に読書が好きだったか、と問われると困る。そんな私を読書の世界に引き込んだ本がある。「偉大なワンドゥードルさいごの一ぴき」という本である。

「偉大なワンドゥードルさいごの一ぴき」ジュリー・アンドリュース作。日本語の翻訳版が1979年に出版されたという、比較的古い本である。そんな本をなぜ私が知っているのか。私の母の影響である。この本は、もともと私の母が子供の頃に読んで、大きな影響を受けた本であるらしい。「偉大なワンドゥードルさいごの一ぴき」はベン、トム、リンディの三人の兄弟が主人公の、ジャンルとしてはファンタジーの話である。この話は、ポター家の三人兄弟が「教授」に出会うところから始まる。教授によるとこの世には伝説のワンドゥードルという動物が存在するらしい。そのワンドゥードルに会いに行くため、教授と三兄弟の訓練が始まる――。このような話である。決して複雑な物語ではない。正義と悪の登場人物も明白。難しい教訓のある話でもない。この本の最大の特徴は、挿絵がないことだ。もっとも、挿絵がない本自体は別に珍しいものではない。しかし、当時全く熱心な読書家ではなかった私にとってこれは全く新しいものであった。挿絵がないということは、全て私が想像しなくてはならないということである。話に出てくる登場人物から、世界観、登場人物が見えているもの、聞こえているもの、触っているもの・・・すべてを頭の中で作り出していかなければならない。特に、作中に登場するワンドゥードルは、描写が少なく、その姿は自分で想像しなくてはならない。よって、この本を読んだ人はその人それぞれの「ワンドゥードル」を創造するのだ。

この本が開いた扉は大きかった。まず、この本以降私が読書を大きな量ですることとなったのは言うまでもない。この本を読み終わったあと、私はハリーポッターなどを読むようになり、「本」の世界に埋もれていった。本は異世界への扉である。現実世界がつまらなかったとき、辛かったとき、ただ単に暇だったとき、本は私を現実世界から連れ去ってくれる。また、この本は私の想像力の扉にもなった。漫画、アニメ、絵本、テレビ番組・・・・・考えてみるとそれら全て何らかの「姿」がある。ドラえもんの姿はどこの誰に聞いても一致しているだろう。ワンドゥードルとドラえもんの違いはそれだ。ほんとうの意味での「自分の世界」に入り浸ることができたのはこの本が初めてだった。自分しか知らない、自分しか知ることのできない世界を作り上げることができたのはこの本を読んだときが初めてである。

「偉大なワンドゥードルさいごの一ぴき」は私にとって全く新しい世界を開いてくれた本だ。この本は私に読書の楽しさを教えてくれたと共に、想像することも教えてくれた。この本がなければ私は同じ人間ではなかった。この本は間違い無く、一番私に影響を与えた本であり、私にとってもとても大切な本だ。

キャンプでの特別な思い出

W校　中等部二年二組
静　大海

僕は七月の頭からキャンプに二週間行きました。キャンプの楽しかった思い出や悲しかった思い出などが沢山あります。そのうちのいくつかをここで紹介したいと思います。

まずはキャンプで、一番悲しかったことについて話したいと思います。キャンプでは、沢山の楽しい思い出や悲しい思い出を同じグループの人と作りました。一緒にご飯を食べたり、一緒に遊んだり、時には喧嘩することもありました。ですから、キャンプが終わる頃にはかけがえのない友達になっていました。最後の日には、周りのみんなは友達との別れが悲しくて泣いていました。ですが、その時の僕は明日から友達と合わない生活をするという実感がなく、家に帰る車に乗るまでは全く泣きませんでした。しかし車に乗って十分ほどした頃には、キャンプで出会った友達とは明日からはもう会えないという実感が湧いてきて、涙が溢れ出てきました。いまでもキャンプの友達のことを考えると涙が出てきそうになります。

次は、一番面白かったことについてです。キャンプではたくさんのアクティビティを友達と一緒にやりました。その中でも一番面白かったのは、ジップラインです。とても高い塔からジャンプするのは怖かったですが、貴重な経験が出来ました。キャンプには、ジップラインをする時にキャンプの中で一番可愛いと思う女子の名前を叫ぶという伝統があるのですが、それもジップラインを盛り上げてくれました。夜電気を消してから、みんなの好きな女子について話すのも面白かったです。

三つ目の思い出は新しく出来た友達との思い出です。同じグループの友達とはもちろん仲良く慣れましたが、他のグループと一緒にアクティビティをする、「合同」を通して他のグループにも友達が出来ました。その沢山の友達は、僕のキャンプの思い出からは絶対に外せない大事な友達です。また、キャンプが終わっても友達のうちの何人かは頻繁に連絡を取り合っています。

四つ目は一番怒ったことについてです。キャンプでは一回だけスリープアウトに行きます。スリープアウトではみんなで協力してカレーを作るのですが、カレーを作っている間に事件は起きました。友達の一人の足が鍋にあたって、鍋が倒れ、中身がほとんど出てしまいました。それだけだったらみんな「しょうがない」と思って許します。ですがその人は最初から最後まで全くカレーを作るのを手伝ってくれませんでした。なので、その日僕はとてもイライラして頭が爆発しそうになりました。

最後に僕はキャンプでは朝早く起きるというゴールを立てて、過ごしていました。普段の生活では、予定のギリギリまで寝ているという生活をしていて、それを変えたいと思ったからです。最初の方は友達に起こしてもらわないと起きられませんでした。しかし朝早く起きて夜早く寝るという習慣をつけていくうちにいつの間にかグループの中で一番早く起きて、友達を起こすようになっていました。さらに今までは朝起きるのが辛く、起きても早く寝たいという気持ちでいっぱいだったのが、気持ちよく起きられるようになれました。そしてキャンプが終わっても自然と早寝早起きが習慣になっていました。

キャンプでは悲しいこともありましたが、楽しかったことや驚いたこと、そして初めてやったことなどもあってとてもわくわくしました。来年や再来年もまた行きたいです。そしてまた新しい目標を立てて、挑戦したいと思います。

キツい、楽しい夏休み

W校　中等部二年一組

千田　真路

七月四日の朝四時から始まった二週間は今までに経験したことのない、思い出深いものとなりました。僕はこの朝スーツケースとテニスバッグを持って空港に行き、飛行機に乗りました。ビーチサイドでのんびりするためではなく、汗をだらだら流しながらひたすらテニスをするためです。僕はエボシというテニスグループに所属していて、グループで二週間フロリダで合宿をするために飛行機に乗ったのです。

フロリダ、タンパに着陸すると、サドルブルックリゾートというホテルへ行きました。到着するとチェックインをし、部屋にものをおき、サドルブルックの探検をしました。施設は広く、テニスコート何十面、フルサイズゴルフコースが二つ、ホテル施設や、住宅エリアとテニス生やゴルフ生のための寮が入るほどの大型リゾート施設でした。探検の後は部屋に帰り、次の日に備えて明日からのテニス漬けの日々への期待と不安を胸にベットに入りました。

七月五日、初日が始まりました。朝六時に起き、すぐに二.二マイルのランニングをしました。終わると朝食を食べ、八時から十一時まで朝のテニスをします。その後、昼食を食べ、一時まで休んでからまた三時までテニスをします。その後、四時四十五分までエキストラテニスをし、夜ご飯を食べてから一日の振り返りをし、九時に寝ます。

あっという間に一日が過ぎ、フロリダの暑い日差しの中のランニングからテニス、トレーニングはなかなか大変で、僕はやばい、あと二週間耐えられるかな?と思いつつも、初日を終えて一日をやり切った充実感で眠りにつきました。翌日もこのような生活を続けるはずでしたが、火曜日の練習中、台風が急にタンパを襲いました。

その日、一時から三時の午後のテニスをしていたら小雨が降り始め、止むと思いきや雨が勢いを増し豪雨になり、雷も鳴り始めました。普段はテニスコートからホテルの部屋まで一マイル程の距離を歩いて移動するのに、雷雨のため雨の中で帰りのバスを待たなければいけませんでした。バスが到着すると、キャンプに参加している生徒が一気にバスに入り、人で満杯のバスでホテルに戻りました。しかし、部屋に戻ろうとすると大きな水溜りが部屋の前にあり、またげなかったため水溜りに入るしかなく、上半身と下半身の両方がものすごく濡れ、靴も洋服も全部びしょびしょ。こんなに雨でびしょびしょになるのは初めてだったので、不快感がひどく、一気に疲れが出ました。

しかし、最悪な事態はこれだけでは終わりません。台風で出歩くのは危険ということで部屋を出られなく、ご飯をいつもの場所で食べられませんでした。そのため、食べ物を部屋に届ける人がいてその人を待つため、エボシのみんなでのんびりカードやテニスをテレビで見ながら食べ物を待ちました。五時から二時間待ちましたが来る気配がないので、フロントデスクの人と電話で確認しましたが、来てるということしか教えてもらいませんでした。一時間が経ちましたが何も来てません。とうとう八時半になり待ちきれなく、ご飯を食べに部屋を出てホテルまで走りました。着くと食べ物を丁度運ぶところであり、自分のをもち部屋でやっとご飯を食べました。やっとのことで食べられたご飯は、献立は全部僕が嫌いなものばかりでしたが、この日ばかりは全部美味しく食べられました。

台風は一日ほどで通り過ぎ、その後は通常に戻りました。テニスを頑張ったのはもちろんですが、エボシのみんなと取り組んだことはランニングです。毎朝のランニングはやっていくたびに慣れてき、言われなくてもやるという習慣がつきました。そこで、二週間の

仕上げとして自分をチャレンジするためいつもの二．二マイルではなく、二日連続で五．五マイルに挑戦し、五十分以内に終わるというきつい目標を立てました。五．五マイルはいつものランニングと違って二倍の長さなので、いつも以上の体力と精神力が必要です。一日目に挑戦した時は最後の最後で疲れが出てしまい、五．五まではいかず五マイルのところで止まってしまいました。次の日の朝ニューヨークに帰る数時間前、再チャレンジをし、前日の経験を生かし四十五分以内に走り切ることができました。合宿の終わりに目標を達成し、スッキリした気持ちで家に帰ることができました。

この二週間で毎朝ランニングし、合計三十マイル以上走ることができて、また、暑いフロリダで真っ黒になりながら思いっきりテニスを出来たことは大きな自信につながりました。辛くて大変なことも多いけれど大好きなテニスをこれからも続けていきたいです。

ワクワクの溢れるキャンプ

W校　初等部六年二組

沼田　りさ

私はキャンプが大好きです。父と母が、私が四歳の時に初めてキャンプに連れて行ってくれました。広い空、ふさふさの芝生、そして仲の良いお友達、私はキャンプをいつも楽しみにしています。

日本でのキャンプ生活は、五月の初めから軽井沢で始まります。軽井沢は東京に比べると標高も高く、山に囲まれているため、朝と夜が冷えて、雪が降ることもありました。そんな時は、ダウンジャケットを着て、焚き火の前に集まって温まります。夏のキャンプは虫が沢山いて、太陽の光が強く、川の水が冷たくて最高です。夜は虫の大合唱の中、テントで眠ります。十月頃のキャンプは、お風呂に行くときに、みんなで寒い道を歩いて、最後にする花火も楽しみの一つでした。こうして、東京の大都会で住んでいても、いつも寝袋やキャンプ道具を車に沢山詰め込んで、山を目指して年に五回ほどキャンプに行くのが私達の日常でした。

アメリカに去年引っ越してきてからは、ニューヨーク州のキャンプ場へ何度か行きました。驚くべきことに、アメリカのキャンプ場は、信じられないほど広い公園の中にあります。隣に大きな湖があるサイトでは、湖面が光に反射して眩しくて、風がそよそよと吹いていて、まるで天国のように美しい場所です。North South Lake というCatskill にあるキャンプサイトです。また、アメリカは、必ず焚き火台になるような石の囲いが準備されています。キャンピングカーで来ている人も半数ぐらいいるので、アメリカならではの壮大なスケールに圧倒されました。

私達がキャンプ場についてまずすることは、その場所で過ごすための準備です。私達は、毎回分担して準備を進めていきます。ほとんどの場合、父がテントや、キッチン周りを進めていき、母、私、妹の三人はタープや、椅子、机などの準備を進めていきます。しかし、前回行ったキャンプでは、いつもとは違う分担の仕方をしました。父は、キッチン周り、椅子、机のみを進め、母、私、妹の三人は、一番大変なテントとその中を協力して進めました。テントの骨組みを手分けして組み立て、みんなで力を合わせてマットに空気を入れ、寝袋を広げます。

「あー終わった！」とテントから出ると、

「助かったよ、ありがとう。」

と父が言ってくれました。嬉しかったです。

準備の次にすることは、薪をおこして、夜ご飯の準備です。薪は、まずは近くにあるマツボックリを拾うことから始めます。折れている木の枝も薪の代わりになるので集めます。そこへ着火剤、買ってきた薪を加えて火を起こします。火は、酸素を原料にして燃えていくので、団扇で風を送ります。特に雨が降っている時、湿気で薪に火が回るまで時間がかかるの

で、苦戦します。やっと火がついたら、今度は妹とハンモックで遊びます。歌ったり、ゆらゆらとふざけています。

キャンプの何よりの楽しみには夜ご飯です。カレーライスやパエリア、先日のニューヨークのキャンプでは父がラザニアを作ってくれました。黒くてとても重い「ダッチオーブン」というお鍋を使って、薪を下から火をつけます。赤くて火が通った薪を、今度は、蓋をしているお鍋の上に置くことで、全体に火が通ると父が教えてくれました。少し焦げたチーズと、いつまでも熱いラザニアをみんなで焚き火を囲んで食べる夜ご飯は、本当に美味しいです。

ご飯の後は、日本だとお風呂があるけれど、アメリカではシャワーです。真っ暗の中を、ライトを持って歩いて行って浴びます。たまにお湯が出ない場所では水のシャワーをキャーキャー言って浴びたりしています。帰り道に、空を見上げると、信じられない量の星が空いっぱいに輝いています。人が住んでいない山は、光がほとんどないので、星の数も輝きも想像以上に美しいのです。

キャンプにはいつも愛犬のカノンも一緒に行きます。カノンは日本から連れてきた保護犬で白いチワワです。怖がりのカノンも、キャンプ場だと大胆になるようで、枯葉を身体中につけて、広い芝生を走っています。

もちろん、キャンプは楽しいことだけではありません。夜に寝袋の中に寝ていても寒くてブルブルと震える時は、ホッカイロを貼って眠りました。夜中にトイレに行こうとすると、外が真っ暗で怖い時は父を起こしました。雨が降ってしまうと、どこもかしこも濡れていて、げんなりします。また、アメリカでは熊が出るそうで、心配で心臓が高鳴ることもありました。

それでも、父と母と妹と、カノンとみんなで小さなテントで寝ることが嬉しいです。冷たい湖で泳ぐことも、トレッキングで見晴らしの良い高台まで歩いた思い出もあります。いつも新しいチャレンジや、新しい発見があって、鮮やかな思い出に溢れています。

自宅へ帰ってきてベッドで眠るときに、「ああ、ベッドで眠るのが気持ちいいな」と思うのに、私はテントの中で眠るのが大好きです。これからニューヨークでも、家族みんなで、ワクワクのキャンプに行き続けたいと思っています。

行けなかった体験入学

W校　初等部六年一組

クラベル　ヴィクトリア

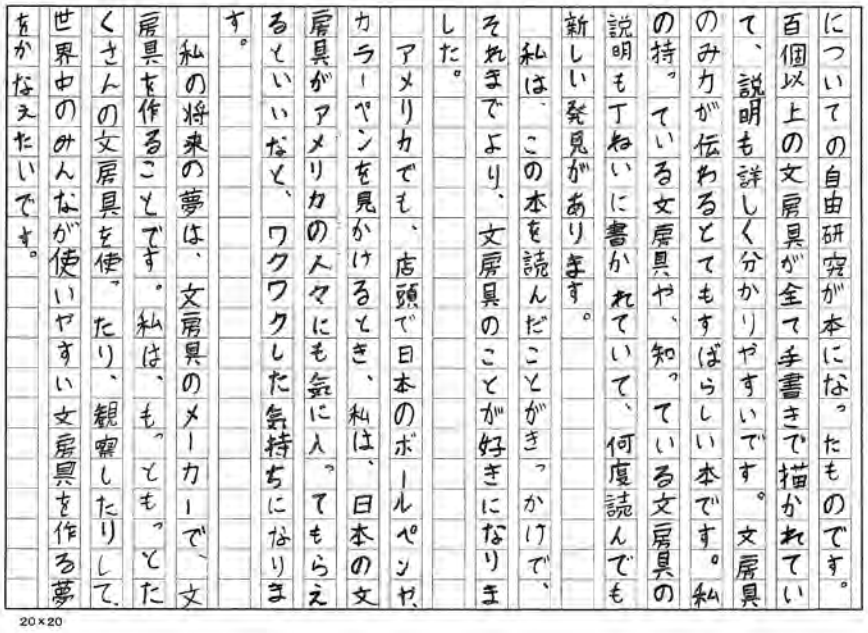
毎年当たり前の様に参加していた体験入学が、コロナかぜの影響で二年間も行けないようになりました。これは、今年の三月ごろに決定しました。一緒に遊ぶのを楽しみにしていた私と日本の友達は、とても悲しくなりました。

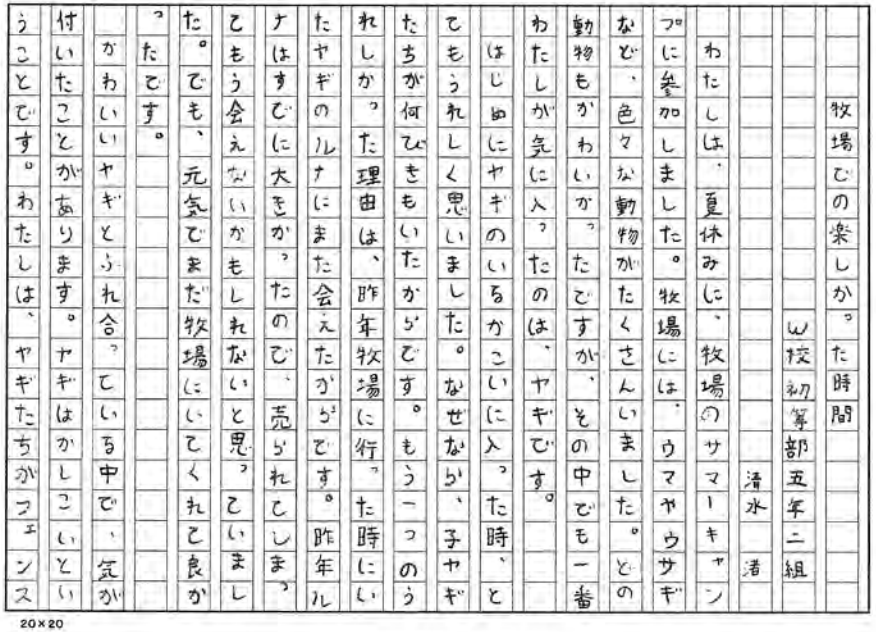
日本に行ったからと言って、特にしたいことがあるわけではありません。ただ「普通の日本の小学生を体験する」だけです。日本では学校の帰りに、必ず塾に寄って宿題やワークブックを済ませてから帰宅します。この塾は私が日本語が話せなかった四歳の頃から通い続けています。月に二回ある土曜日の四時間授業の後、友達とコンビニで買い食いをするのも楽しみです。わたしの大好物は百円のポップコーン、ジャガリコと、ぶどう味のグミです。週末、友達の家に数人で集まり、おやつを

食べながらおしゃべりします。学校の帰りに近くの公園で鬼ごっこをするのも好きです。

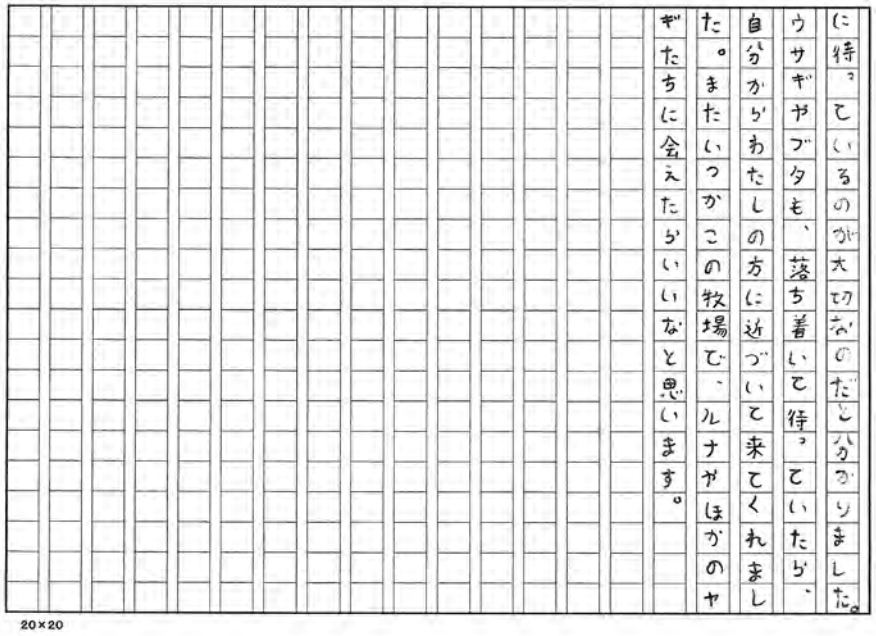
私が体験入学でお世話になっている学校は、給食を食べ終わった人から昼休みを取ることができます。そのため苦手な「トマトサラダ」や「ゆかりご飯」でもかなり必死になって飲み込みます。屋上にあるコートで友達と毎日バスケを楽しみました。私のチームは負けてばかりでしたがそれでも楽しかったです。

以前、「海外に住む日本人のほうが、日本の良さを感じている」という話を聞いたことがあります。日本に帰れないこの二年間を通し、日本の日常生活に「特別」を感じています。アメリカの小学生は学校の帰り道、子供だけで寄り道をしたり、習い事に行ったりすることをしません。必ず保護者同伴で移動をします。安全であるということは一年のほとんどをアメリカに住み、短い期間を日本で過ごす私が感じる「特別」です。









アメリカと日本の学校の違い

W校　初等部五年一組
クルマイク　一誠

僕は日本で生まれて二才から六才までインターナショナルスクールへ通い、小学校一年生と二年生は日本の学校へ行きました。

そして三年生からアメリカの学校に来ています。僕は日本とアメリカの学校の大きな違いは当番の事だと思います。日本にはそうじ当番、給食当番などがあります。自分たちでそうじをすると物を大切にしたり、きれいに使おうという気持ちになるので、すごく良いことだと思います。給食当番はみんなで同じ物を食べて好き嫌いがなくなるし、美味しい物を食べて、班のみんなと話すことが楽しかったです。

アメリカの学校では日本よりプレゼンテーションをすることが多いです。最初は難しかったけれど二、三回目からは上手にできるようになりました。自分の考えをみんなに知ってもらい、みんなからの意見をもらえるのでまた次のプレゼンテーションの時にその意見が参考になります。

僕が日本で一番楽しかったことは放課後に毎日友達と外で遊んでいたことです。晴れの日は公園でサッカーや鬼ごっこをして、雨の日は区民館でボードゲームやトランプをして遊びました。

日本では子供だけで電車に乗って学校や習い事へ行ったり、自転車で隣の学校までサッカーの試合へ行ったりしていました。アメリカでは安全を考えて子供だけで外に出ないことが多いので日本のほうが自由だったと思います。

僕は日本とアメリカで日本語と英語ができるようになって両方の文化を知ることが自分にとってよい経験になっていると思います。

私のおじいちゃん

W校初等部 四年三組

武田 結万

私のおじいちゃんは、日本の愛知県に住んでいます。年に一回、日本に一時帰国する時に、家族で、おじいちゃんの家に遊びに行っています。おじいちゃんは、やさしくて、私と兄弟のことを笑わせてくれる、面白い人です。けれども、去年も今年もコロナがはやって、残念ながら日本に帰れませんでした。コロナがおさまったら日本で会えることを私もおじいちゃんも楽しみにしていたけれど、ある日、とつ然おじいちゃんが病気になってしまいました。

16×16

初めは、みんなとても心配だったけれど、どんどん良くなって、退院できることになりました。

今は、家でゆっくりしているそうです。

いつも、お仕事を一生けん命がんばっているおじいちゃんには、ずっと、ずっと元気でいて欲しいです。

16×16

お父さんとお母さんが食卓で、心配そうに、何かのことを話していました。何があったのかが気になったので、お母さんに聞いたら、おじいちゃんが病気になってしまったということを教えてくれました。

おじいちゃんは、色々な検査をして、その後大きな病院に転院しました。三ヶ月、とても苦しいりょうをしました。入院している間、おじいちゃんの元気が出るように、毎日私と姉弟の写真をお母さんとお父さんが送りました。おじいちゃんは薬のせいで気分が悪くなったり、ご飯が食べられなくなってしまったのに毎日返事をくれました。

18×16

①

日本とアメリカのサッカー

W校初等部四年二組

瀬未 真弥

「真弥、パス、真弥、パス、パス。」

と、チームメートがさけびました。

これは、夏休みに私が日本でサッカーをした時のことです。

夏休みに私は、日本に行き、その母の家の近くのサッカーチームに入りました。前は、休験入学に行きましたが、今年はコロナのせいで行けませんでしたがサッカーはできました。

私はアメリカでもサッカーをしていますが、日本でサッカーをしたことはありませんでした。初めてなの

16×16

で、私はと。ってもドキドキしていました。

思い出してみると、とても楽しい体験でしたが、日本とアメリカのサッカーの練習は色々ちがうことに気がつきました。

まず、日本の練習場は土です。アメリカの練習場は草です。土の練習場でたくさん走ったら、土がくつの中に入ってきて気持ち悪いのです。それから、すべって転んだ時は、草よりいたいのです。そしてボールを土の上でけると草の上でけるよりも"と速く動くので、ボールのコントロールが少しむずかしいのです。

次に、日本では、ボールを上手に

16×16

をいつも一時間ぐらいもします。だから、アメリカの子どもの方が、日本の子どもより、テクニックはへたですが、試合の仕方が上手だと思います。日本では、試合形式の練習の時、ポジションはぜんぜんきまっていませんでした。しかし、アメリカではみんな、自分のポジションや、役わりを覚える練習をたくさんします。

さて、日本とアメリカのサッカーの練習のどちらが良いでしょうか。

私はアメリカのサッカーの練習は日本の練習よりも"と楽しいし思います。なぜならアメリカでは試合形式のちがたくさんあるので楽しいか

16×16

らです。だけど、日本のサッカーの練習では、テクニックの練習が多いので、私はもっと上手になった気分になりました。だから、両方の練習にいい所があると思います。

「ヨメる、パない、エゲつない」

これは、今日のアメリカでのサッカーの練習の時、チームメイトが私にさけんだ言葉です。その時私は、「はっ」と気がつきました。アメリカでも日本でも同じ言葉を使うのです。これからアメリカでも日本でもサッーで友達ができます。これからもサッーをがんばって色んな国で友達を作れたらいいなと思いました。

16×16

あつかうテクニックを、たくさん練習します。たとえば、リフティングです。百回ぐらいもできた人がいました。しかし、アメリカではリフティングの練習はほとんどやりません。これから、パスの練習もたくさんあり、一時間ぐらい続きました。短いきょりのパスとか、長いきょりのパスがあり、足の内側、外側と、甲でパスの練習をしました。私はリフティングができなくてもくやしかったです。だから、もっとがんばりたい気分になりました。

それから、日本では、試合形式の練習はあまりありませんでした。しかし、アメリカでは試合形式の練習

16×16

No、1

楽しかった一週間

W校初等部四年二組

平井　遙基

朝五時に起きたのは、一年ぶりでした。飛行機に乗って、フロリダのディズニーランドへ向かいました。ホテルに着いたときは、くたくただったので、その日はぐっすり寝て、遊ぶのはまた明日にすることにしました。

翌朝、バスに乗ってアニマルキングダムへ行きました。ぼくがとまったホテルは、ディズニーランドのしき地の中にあったのに、アニマルキングダムまで、三十分以上かかりました。ディズニーランドが広いとい

16×16

No、2

うことを実感しました。アニマルキングダムのサファリパークの中には、いろいろな動物がいました。なかでも、キリンの首の長さが想像以上に長くて、おどろきました。

次に行ったのは動物園です。最初に見たゴリラが一番はくカがありました。とくにゴリラが寝ているすがたが、みカ的でした。ゴリラのお中をよく見ると、赤ちゃんが乗っていました。

三日目に行ったのは、ケネディースペースセンターです。そこでは、宇宙にまつわる道具や、実際に宇宙に行ったロケットなどがおいてありました。ぼくの心に一番残ったのは

16×16

No、3

、ロケットです。ボロボロになっていたけれど、本当に宇宙にいって来たんだなと思うと、すごくかっこよく見えました。

最後の日に行ったのは、マジックキングダムです。いろいろなアトラクションがありました。最初にどれをやろうかとまよったけれど、ジェットコースターに乗ることにしました。ガイドブックには、だれでも楽しく乗れると書いてあったのに、コースのまわりが岩だらけでした。今にもぶつかりそうで、どきどきしました。みんなハンドルを必死につかんでいる中で、後ろの人が手をあげて、楽しそうにしているのを見て、

16×16

No、4

信じられないと思いました。終った時に初めてほっとしました。こわかったけれど、スリル満点でした。

夜ごはんを食べた後、ホテルに帰りました。ホテルに帰ると画家さんがロビーにすわっていました。その画家さんにぼくも絵をかいてもらいました。とてもうまかったので、ジャンプして部屋にもどりました。その日はベットサイドに絵をかざって寝ました。

この一週間を通して、日本では、あまり体験できないことがいっぱいできて、すごくきちょうな時間になったと思いました。

16×16

納豆作り

W校　初等部四年一組
早野　友翔

僕は、納豆が大好きです。

アメリカでは、冷凍納豆しか手に入りません。毎年一回、夏に日本に帰って、おいしい納豆を食べる楽しみがあるのに、今年は、コロナで、帰れなかったので、この夏、納豆作りを始めました。

お母さんのお友達が手作り納豆を作っていて、もらって食べたことがあり、すごくおいしかったので、作り方を教わって、一人で作ってみました。

最初に、お母さんが納豆を作っているのを手伝って、その後、納豆の作り方について、インターネットで、調べました。

納豆作りに必要なものは、かんそう納豆まめ、納豆菌、電気圧力なべだけです。

納豆は、大豆からできていて、この大豆をゆで、納豆菌をまぜます。それを温かい温度に、二日目の朝、水にひたした大豆をざるに上げます。茶色だった豆が黄色になり、まん丸から、だ円形に形が変わり、九ミリメートルに大きくなっていることに、びっくりしました。その豆をあつ力なべで一時間むします。むした後の大豆は、まだ、くさくなくて、豆のにおいがします。大豆は、黄色から、うす茶色に変わっていました。むすのが終わったら、納豆菌を入れ、保温なべで、二十四時間、発こうさせます。

三日目には、発こうが終わります。発こうが終わった納豆は、焦げ茶色になっていて、ねばねばになって、白い糸がでてきました。においは、鼻にツンとして、目が覚めるくらい、くさいです。その後に、まる一日、納豆を容器に入れて、冷ぞう庫で、ねかせます。まる一日ねかせることで、くさみが、消えてきます。あと、ねかせる前より、つぶが、小さくなっていました。

出来上がった後に、僕が作った納豆と冷とうもつことで、大豆を発こうさせ、納豆になります。この納豆菌は、「こそうさん」とよばれるび生物の一種で、び生物の中で安全なび生物といわれています。とくに、稲わらに多くそん在しているそうです。

僕が、今まで食べて一番おいしいと思った納豆は、水戸で買ったわらに入っている納豆です。わらには、「こそうさん」が入っているからだと分かりました。

僕が知っている菌は、コロナ菌やばい菌など、食べたら身体に良くない菌しかなかったので、納豆を食べて、菌やび生物を食べていることにびっくりしました。他にも、僕が毎日食べているヨーグルトに、菌が入っていることを知り、おどろきました。

納豆を作り始めてから、食べられるまで、四日間かかります。

まず、一日目は、大豆を一晩、水にひたします。この大豆、一つぶは、まん丸く、一つ五ミリメートルくらいで、種みたいです。

う納豆を食べ比べてみました。僕が作った納豆の方が、新せんで、豆がやわらかくておいしかったです。僕の家族も手作り納豆の方が、豆の味がしっかりしていて、今まで食べた納豆で一番おいしいと、ほめてくれました。

他にも、もっとおいしく食べるために、しょう油、市はんのタレ、手作りしょう油こうじをかけて、納豆の食べ比べをしました。しょう油としょう油こうじは、同じ味だと思っていました。けれども、食べ比べてみたら、しょう油こうじは、あまじょっぱい味でした。市はんのタレは、梅だれだったので、甘くて、あまり好きでは、なかったです。

納豆が好きなおじいちゃんに、昔、納豆をおいしく食べるコツは、「四十回かきまぜること」と、教わっていたので、かきまぜる回数で、おいしさが変わるのかをためしてみました。しょう油こうじで食べた納豆は、二十回かきまぜても、四十回かきまぜても、ねばねばになりませんでした。タレは、二十回かきまぜた時

より、四十回かきまぜた方が、ねばねばになりました。しょう油は、二十回かきまぜた時より、四十回かきまぜた方が、タレをまぜたときより、さらに、ねばねばになりました。しょう油で食べた納豆が、一番しょっぱくて、ねばねばしていて、おいしいと思いました。

僕は、納豆作りをやって、よかったです。むずかしいところが、ほとんどなく、時間は、少しかかるけれど、自分が作った納豆を食べられるので、楽しかったです。手作り納豆を作ると、家族がよろこんで、ほめてくれるので、うれしかったです。お友達にも、僕が作った納豆と、冷とう納豆を食べ比べてもらって、どちらの方がおいしいか、聞いてみたいです。

今度は、ヨーグルト作りに、ちょうせんしてみます。


お母ちゃんとのやくそく

W校初等部三年三組

沼田　さら

わたしは、「お母ちゃんとのやくそく」という本を読みました。日本がせんそうをしていた七十年前に、中国のまん州と言うところに住んでいた、「いっちゃん」という十一才の少女が主人公です。

いっちゃんは、五人兄弟の一番上の少女でした。まん州で小学一年生になったいっちゃんは、楽しく日本語の学校に通いました。学校が終わった後、中国人のおじいしゃんが干しバナナをくれました。それは日本にいた時、おばあちゃんからもらった



た干しバナナと同じ味でした。いっちゃんはそれが大好きでした。

しかし一九四五年に日本がせんそうで負けてしまったことで、干しバナナをくれたおじいちゃんが毎日来てくれなくなりました。いっちゃんのお母ちゃんがもう一人のシゲちゃんという子供をうんだけれど、シゲちゃんは、体のちょうしがわるくなり、息を引きとってしまいました。シゲちゃんのほねはつぼの中に入れました。

ある日のこと、いっちゃんのお父ちゃんは、日本がせんそうで負けたせいで、まん州にいる日本人があつまって、そとをもせまい部屋の中に入れられて、ぎゅうぎゅうにになっていました。わたしは、お父ちゃんともお母ちゃんをかわいそうに思いました。

一才のいっちゃんは、八才の弟のキヨシちゃんといっしょに、二人だけで日本に帰ることになりました。お母ちゃんは、体のちょうしがわるくなっていたので、いっしょにかえることが出来なかったのです。お母ちゃんは、さい後の力をふりしぼって、いっちゃんとキヨシちゃんの荷物に、名前を大きくしるしてくれました。その日の夜は、いっちゃんとキヨシちゃんと、お母ちゃんの三人でねむることにしました。お母ちゃんの手がをったかったのです。

次の日いよいよ出ばつです。まん州からころそうという所まで歩いて、その時、五百五十五キロを歩きました。ちびちび食べて、いきができないほどせまい船にの、て、日本まで行きました。のりものに弱いいっちゃんは何どもはきました。いっちゃんとキヨシちゃんはお互いに助け合いました。日本についた後、いそこのソウお兄ちゃんがすぐそこにいきした、ソウお兄ちゃんは、「いっちゃーん、いっちゃーんキヨシちゃーん」と名前を何でも呼んでくれました。

しずおかに帰、た後、いっちゃんたちは、おばあちゃんの家に行きき

16×16

した。もうそこには、お父ちゃんたちがいたのです。でも、お母ちゃんが日当たりきせん。いっちゃんは、すごくさがして、でもいきせんでした。お母ちゃんは息を引とって、てしまいました。

わたしは、いっちゃんとキヨシちゃんがすごいなと思いました、ながならばこんなに長いきょりを歩いたからです。足がいたくてもがんばりました。何としてもお母ちゃんに会いたいと思っていたのです。それなのに、日本に帰ったらお母ちゃんがいなくて、悲しかっただろうなと思うとなみだが出てしまいました。

ぜひこの本を読んでみてください。

16×16

きっと、悲しい気もちでいっしょに、今の平和な毎日がいいなと思うと思います。わたしには、お母さんが生きていて良かったなと思いました。この本を読んでとてもよかったです。

16×16

しょう来のゆめ

山梨校初等部6年3組
森戸 沙耶

わたしのしょう来のゆめは、デザイナーになることです。自分がデザインした洋服を着て、好きな家具がおいてある家で生活がしたいからです。

今は、お人形のいかちゃんの服を自分で作っています。テーマは、鬼滅の刃です。鬼滅の刃のキャラクタは着物を着ています。なるべく本物に見えるように、イヤホンで調べながら作っています。今は、テニュを使っています。テッシュで作るのはかんたんだけど、力を入れ

16×16

Page 2

るとすぐにやぶれてしまうので、気をつけないといけません。他にもお り紙やテープに直せつも様をかいて、はりつけています。おでは、りぼんで作りました。お母さんに、

「そろそろテディベアじゃなくて、ぬので作ってみたら？」

と言われました。でも、ぬのだと、ぬいしろを考えたり、はりと糸を使わないといけません。とてもむずかしいのです。お母さんに教えてもらいながらます、ぬのをぬう練習をしています。さいしょにりかちゃんのまくらやハンクを作りました。はりに糸を通すのはすぐに出来るようになったけど、玉どめを作るのはなか

16×16

Page 3

なか上手にできません。へんな所に玉が出来てしまいます。手も何回もはりでさしました。くやしかったです。夏休みが終わるころまでには、ぬので洋服も作れるようになりたいです。

お父さんとは、りかちゃんの家をダンボールで作っています。今までに作ったのは、プール、BBQテラス、テレビ付きのリビング、ベットルーム、とクローゼットです。クローゼットには、服をかけられるハンガーもついています。ハンガーはクリップを曲げて作りました。これは、お父さんのアイディアです。二階だてバスや、オープンカーもあります。

16×16

Page 4

「本当にこんな家に住んでみたいな」

と言いながら作っています。一番のお気に入りは、ベットルームにおいてあるランプです。これは、家具屋さんに行った時、とっても気に入ったランプがあり、それをまねしてビーズと、ペットボトルのキャップで作りました。手にせっ着ざいがついて大へんだったけど、ピンク色のビーズで作ったので、とてもかわいくできました。

いろいろな物を作るのは、楽しいです。でも、一つこまっていることがあります。おく場所がないのです。りかちゃんの家はどんどん大きくなっていくし、服もどんどんふえていき

16×16

Page 5

ます。でもお母さんに

「かたずけなさい。」

と毎日のように言われてしまいます。せっかく作ったのにすてられてしまうのもいやだし、こまっています。それでもやっぱり、想ぞうしながら物を作るのは、楽しいです。これからもつづけていこうと思います。

16×16

ニューヨークへの引っこし

W校初等部三年二組

いずみ

わたしは、今年の六月に日本からニューヨークへ引っこしてきました。さいしょに、お母さんから引っこすことを聞いたときは、とてもびっくりしました。でも、ニューヨークがどこにあるのか、まだ知りませんでした。

ある日、おじいちゃんが地球ぎを買ってきてくれました。ニューヨークのある場所を調べてみたら、日本のうらがわにあって、とても遠いことがわかりました。行くのにどれくらいの時間がかかるのかと、とてもどきどきしてきました。

引っこしの日が近づいてきました。なかのよい友だちからよせ書きをもらったり、学校のクラスのみんながおわかれ会をしてくれたりしました。引っこし屋さんが来て、家のに物がどんどんなくなっていきました。いよいよ引っこすのだなと思って、少しさびしくなりました。

ついにニューヨーク行きのひこうきに乗ります。家族や親せきが空港まで見送りに来てくれました。お母さんが、

「しばらく会えなくなるけど、元気でね。」

と言っていて、とてもさびしくなってきました。

空港では、お父さんが待っていてくれました。ひさしぶりに会えて、とてもうれしかったです。初めてこれから住む家を見たときには、とてもワクワクしてきて、ねむかったのもわすれるくらい、妹とはしゃいでしまいました。夏休み中は、マンハッタンに行ったりして、楽しくすごすことができました。

二か月たって、今はニューヨークの生活にも少しずつなれてきました。現地の学校も始まって、まだえい語が話せなくて不安になることもたくさんあります。でも、日本にいる友だちや見送ってくれた家族を思い出すと、がんばろうという気持ちになれます。地球のうらがわにいると思うと、とても不思ぎな感じがします。みんなにわたしの元気がとどくように、楽しく毎日をすごしていきたいです。

うさぎの歯の力

W校初等部三年一組
清水茜

わたしは、夏休みに、フォームのサマーキャンプにさん加しました。そこでは、やぎや馬や、うさぎがふたがいました。やぎや馬にはごはんをあげたり、馬にのるレッスンをうけたりしました。さらに、子やぎやうさぎとふれ合う時間もありました。

中でもわたしが気に入った動物は、うさぎです。あたしはうさぎをひざにのせてみました。あたたかくてふわふわしていて、かわいかったです。

それで、一つだけおどろいたことがあります。それは、うさぎの歯です。うさぎの歯は、わたしが思っていたよりも強かったです。うさぎは、口の近くにある物をかんでしまいました。たとえば、草はもちろんですが、他にもわたしのズボンや、上着のチャックなどです。ズボンは、少しやぶけてしまい、上着のチャックは、まがってしまい、しまらなくなってしまいました。こんなにカ強いと思わなかったので、とてもおどろきました。

わたしは、日本に帰ったらうさぎをかいたいと思っていますが、フォームキャンプにさん加して、注意しないといけないことを知ることができました。それは、うさぎのとくちがいけないね。と言っていました。かわいい動物は、ただかわいいだけではなく、注意しなければならないことがあると知ることができてよかったです。

わたしは、フォームのサマーキャンプにさん加して、たくさんの動物とふれ合えてうれしかったです。いっしょにいるだけで、うれしくて、楽しくて、落ち着いた気持ちになれました。また、いつでも動物とふれ合いたいです。

食料不足について

W校初とう部三年一組

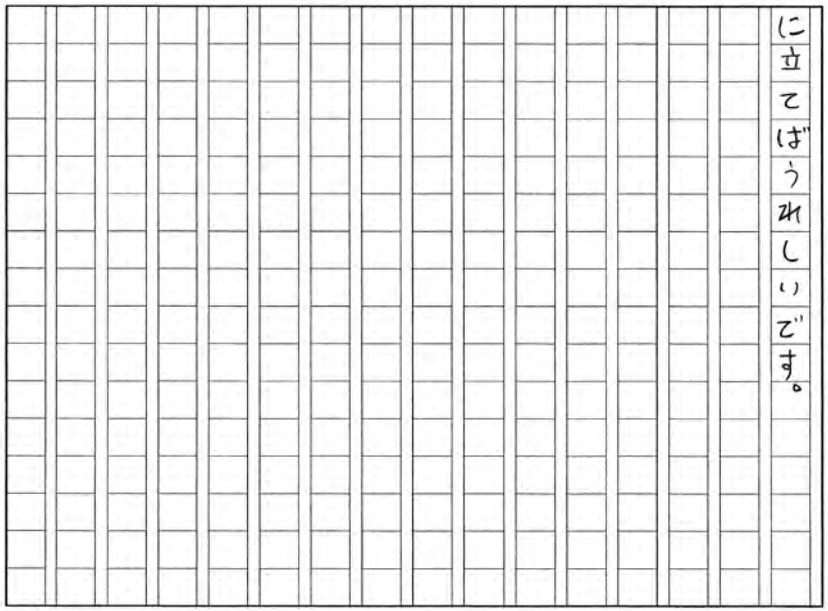
石川 桜女

弟が、夜ごはんをのこした時にお父さんが

「世の中には食べられない人が沢山いるからさい後までごはんを、きちんと食べなさい。」

と言いました。私は、世界ではどのぐらいの人が食べれないで困っているのか知りたくなって調べてみました。

国連のホームページによると、世界のこく物生さんりょうは、毎年二十六億トン以上だそうです。世界では、すべての人が十分に食べられる食料は生さんされているといわれています。



16×16



16×16

に立てばうれしいです。

ホテルでの二週間

W校初等部二年三組

小林 墨人

ぼくは、六月六日に日本へ行きました。いとこや、おじいちゃんとおばあちゃんに会うために行きました。でも、日本についてからすぐには会えませんでした。それは、コロナのせいで、二週間ホテルでかくりしなければいけなかったからです。



12×12

います。ですが十人に一人が、食べられずうえに苦しんでいるようです。その原因の一つは、十三億トンの食べ物が毎年捨てられているからだそうです。私はこんなに捨てられている食料が多い事に気がつきました。おなかを空かせている人に、すこしでも分けてあげられたらいいのになと思いました。

私は、大きい事はできませんが、毎日ちゃんとのこさず食べて、弟と妹がのこさず食べるように面どうをみたいです。また、むだをふかさないためにスーパーでお母さんが買いすぎないようにチェックしたいと思います。私の小さな一歩が少しでも役



16×16

す。でもそのホテルはいいホテルだったので、よかったです。

ホテルで、はたらいている人たちは、みんな親切でやさしかったです。二人の人となかよくなりました。春花さんという人は、スーツケースをへやにはこんでくれました。春花さんには、朝や夜にときどき会って話しました。楽しかったです。

12×12

昼ごはんは、たまにホテルの中のレストランで食べました。ぼくの気に入った食べものは、ハワイアンピザとパンケーキとブルーハワイゼリーです。とてもおいしかったです。レストランの中は明るくて気分てんかんになりました。また食べに行きたいです。

かくりがおわるさい後の日に、ぼくは、春花さんと

12×12

もう一人の人は、ホテルの中にあるローソンの吉田さんです。毎朝毎ばんローソンへ行ってごはんを買いました。そのときに吉田さんと話しました。吉田さんには六才のまごがいます。でも、ぼくよりしずかな子だと言っていました。それを聞いてぼくは、自分がそんなにしゃべるのかと本当におどろきました。

12×12

吉田さんに手紙を書きました。また会いたいとつたえました。二人からも手紙をもらいました。すごくうれしかったです。手紙には、「ありがとう」。や「べん強をがんばってね」と書いてありました。それで、ぼくは、今すぐべん強しようと思いました。来年もそのホテルへ行きたいです。

12×12

グランドキャニオンの

太よう

W校しょとうぶ二年一組

立石　新奈

わたしは、夏休みにグランドキャニオンに行きました。グランドキャニオンは、広くてきれいでした。

わたしは二年生のげん地校で、キャニオンについて勉強していました。キャニオンというのは、何万年も

たしは太ようがだんだんと下におりていって、赤くなっていくのが分かりました。

ふだんは太ようがうごいているのは見えないけれど、本当に太ようはゆっくりうごいていました。

わたしは、

「今、日本はお昼だから太ようは見えるよね。」

と聞きました。

お父さんが、

かけて少しずつけずられて出きた谷です。わたしは日で見て、上は赤くて、下にいくとだんだん茶色くなっていくのに気がつきました。

がけの所で写真をとったとき、おちたらどうしようと思って、すこしこわかったです。

しばらくすると、太ようがだんだんオレンジ色になり、夕日になりました。わ

「すごいね。ぶんせき家だね。日本は今太ようが上にきてるよ。」

とはめてくれました。

つぎの日、朝五時におきて朝日を見ました。オレンジの空から赤い太ようが出てきました。夕日のときは、みんな話しながら見ていたけれど、朝日を見るときは、たくさんの人がいるのにとてもしずかでした。わたし

キャンプのお仕事

W校初とう部二年一組

真鍋　和也

今年のレーバーデーに、ぼくは家ぞくとキャッツキルのキャンプ場に行きました。ぼくは赤ちゃんの時からキャンプにつれられていたので、今回で十五回目ぐらいだそうです。

キャンプ場に着くと、ぼくの仕事はたくさんありま

は小さな声で、

「きれいだね。」

とお母さんに言いました。

お母さんも小さな声で、

「きれいだね。」

と言いました。

わたしは、ねむくてさいしょは行きたくないと思っていました。けれど、朝日がすごくきれいだったので見てよかったです。

グランドキャニオンの太

す。さいしょの仕事は、お父さんが立てたテントの中にエアマットをふくらませることです。ふくらませた後、ぼくと弟はエアマットの上で、ボヨンボヨンとジャンプをしてあそびました。とても楽しかったです。

二つ目の仕事は、火をおこす仕事です。ぼくと弟は小えだを集め、それを火をおこす場所におきました。

ようは、わたしが今まで見た太エうの中で一番きれいでした。

その上に新聞紙と木をのせます。ぼくのお父さんがチャッカマンで木に火をつけました。でも、さいしょにあまり火がつきません。だから、ぼくと弟はうちわをつかって、あおぎました。でも、たくさんあおいでも火は少ししかつかず、弟は「もうつかれたぁ。お兄ちゃんやって。」と言いました。だから、ぼ

くはがんばって一人であおぎました。そうしたら火がボーともえました。ぼくはやったぁ、火がついたよ。」とよろこびました。その後お肉やソーセージ、コーン、やジャガバターをお父さんがやいてくれてみんなで楽しく食べました。

さい後のぼくの仕事は、サモアを作る仕事です。今度は長いえだを見つけます。

マシュマロをやくのは、とてもむずかしいです。お父さんは、いつもこの時、「まだだよ。ふわふわになるまでまって。」と言います。ぼくはがんば、てまっと、とてもおいしいサモアができあがります。

来年もキャンプ場で、楽しい仕事をたくさんしたいです。

こん虫はすごい

W校しょうとうぶ二年一組

ひら戸りんせい

ぼくは、虫が大すきだから、しょう来、こん虫学しゃになりたいと思っています。

ぼくは、とくにかまきり、ばったちょうちょとナナフシがすきです。ナナフシは、木のえだのような虫です。

こん虫は、人間ができないことができるからすごいと思います。かまきりは、かまのような前足がかっこいいです。ありは、小さいけれども、すをまもったり、ありの赤ちゃんのおせわをしたりできます。ばったは、とてもとおくにとべます。人間にたとえると、サッカー場をとびこえるジャンプです。モナークバタフライは二千五百マイルスぐらいとべます。ナナフシは、カメレオンみたいにカモフラージをします。

ある日、ぼくは歩道でみどり色と白の羽のせみを見つけました。せみは、とべなくてバタバタしていたから、もうすぐしぬと思ってかなしくなりました。五分後、気になって見に行くと、せみはうごいていません。

せんでした。ぼくはゆびで、せみをさわってみました。すると、せみがうごいたのでびっくりしました。せみをいっぱいさわったら、とうとうとびました。とんだとき、家ぞくみんながびっくりしました。そして、高く高くとんで、せみが見えなくなりました。家に帰ってしらべたら、みどり色のせみはからから出てきたばかりの赤ちゃんでした。ばったはゆびで、ぱっとはねました。

こん虫学しゃになったら、新しい虫を見つけてはくぶんしゅうをしていたのは、すごいなと思いました。

こん虫学しゃになったら、新しい虫を見つけてはくぶつかんに入れます。そして、虫がどうやってこうげきしたり、まもったりするかを本に書きたいと思います。

イエローストーン

W校しょ　とうぶ　一年二くみ

しのはら　かいせい

こ年のなつ休みに、かぞくでイエローストーンこく立こうえんにいきました。ブラックベアやマーモット、アンテロープ、エルク、プロングホーンそれからグリズリーなど、たくさんのどうぶつをみられてうれしかったです。

12×12

ませんでした。またいつかいきたいです。ずかんをたくさんよんで、どうぶつのことにくわしくなりたいとおもいます。

12×12

そして、一ばんかんどうしたのはバインソンです。ぼくたちかぞくがのる車のすぐ目のまえを、のしのしとおりすぎたのです。バインソンはつのをもっているのです。けれど、とてもやさしそうな目をしていたのでかわいくてたまりませんでした。

こんかいのりょこうではオオカミを見ることができ

12×12

てつぼう

W校　一年二くみ

おかの　ももか

わたしは、なつやすみににほんにいちじきこくしました。にほんでは、てつぼうをやりたいとおもっていました。アメリカに、いくまえ、てつぼうをできるようになりました。でもアメリカには、てつぼうがないのでてつぼうをできません

12×12

でした。

　にほんにいちじきこくして、おかあさんの、おともだちのおうちにいって、ちいさなてつぼうでやってみたら、できなくてショックでした。

　それでなんにちかたってこうえんにいきました。さいしょに、やってみたらこわかったです。なぜなら、ひくいところでも、さかさまになってみると、すごくたかくかんじるのです。

　わたしは、さかさまになるまでは、できませんでした。でも、てつぼうからおりることが、できませんでした。わたしはなんじかんも、ひとりで、れんしゅうしました。みずきゅうけいいがいは、いっしょうけんめいがんばりました。ついにできるようになりました。おかあさんにもいっぱいほめられました。

　てつぼうをやっていたときわたしはぜったいに、おちたくないとおもっていました。できるようになってすごくうれしかったです。まわれるようになったらこわくなくなりました。まわれるようになったらすごくきもちがよかったです。

12×12

　ブリンキー

　一年一くみ

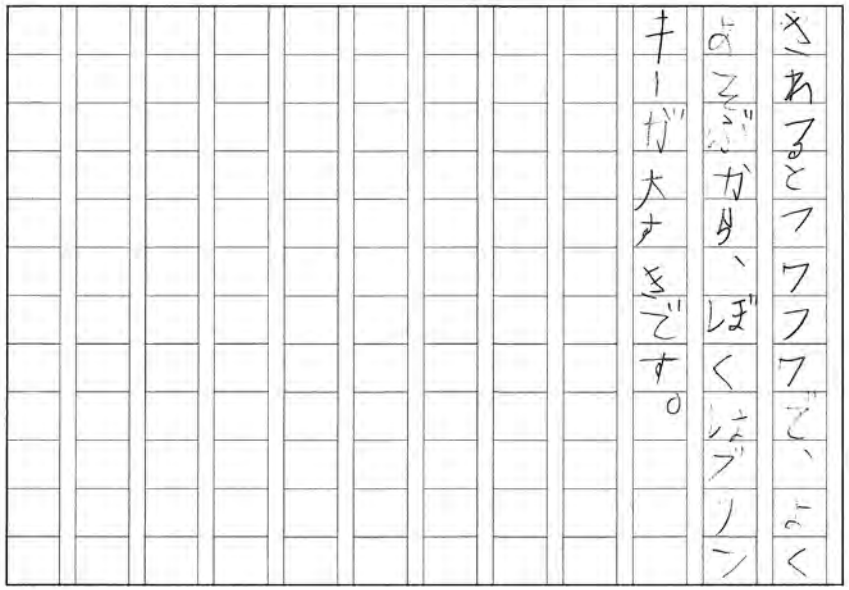
　ウィルソン　カイル

　ぼくのうちにくろねこがいます。ねこのなまえはブリンキーです。

　ブリンキーはた月にぼくのうちにシェルターからきました。まだ子ねこです。

　さいしょのよるは大きなおりに入れてねることにしました。でもきをけして、

12×12



2

ハンドルームに行くと、おはようございます。おもちゃをこのニャーとなくのがさこえました。ぼくがもどるとブリンキーはなくのをやめました。それでぼくはおふとんをもってきてとりのとなりでねました。

ブリンキーという名きえはおにいちゃんがつけましただってていつもまばたきをするからです。ブリンキーはたかくジャンプすることがすきでしょ。

12×12

4

さあるとフワフワで、とくのそばがタ、ぼくはブリンキーが大すきです。

12×12



3

とがでてきます。おもちゃをおいかけてニャンプします。

ナナととりがついたおもちゃガ大すきでナ。だってこれがさいしょのおもちゃだからです。

ブリンキーはまい日カリカリのごはんをたべます。がんづめのえさはたべません。ぼくがつったニシーバスはよろこんでたべました。

ブリンキーはかわいいし

12×12